



EDB

Lasso

リリース 4.0.0

EnterpriseDB Corporation

2023 年 09 月 01 日

目次

第 1 章 Phase 1	3
1.1 Automated diagnostics gathering	3
1.2 Downloading Lasso	3
1.3 Linux systems	4
1.3.1 要件	4
1.3.2 Postgres と BDR3 レポート	4
1.3.3 Barman レポート	5
1.3.4 Replication Manger (repmgr) レポート	5
1.3.5 Postres Enterprise Manager (PEM) レポート	6
1.3.6 フェールオーバーマネージャー (EFM) レポート	7
1.3.7 Replication Server (xDB) レポート	8
1.3.8 PgBouncer レポート	9
1.3.9 HARP レポート	9
1.3.10 etcd レポート	10
1.3.11 システムのみのレポート	11
1.4 Windows systems	11
1.4.1 要件	11
1.4.2 使用法	11
1.4.3 Postgres Enterprise Manager (PEM) レポート	11
1.4.4 Replication Server (xDB) レポート	12
1.5 Common considerations	13
1.5.1 セキュリティ上の考慮事項	17
第 2 章 Phase 2	19
2.1 Supervised Lasso report generation	19
2.1.1 一般的なアーキテクチャ	19
2.1.2 ハードウェア関連	19
2.1.3 ソフトウェア関連	20
2.1.4 アマゾン ウェブ サービス (AWS)	20
第 3 章 Phase 3	21
3.1 Returning the Lasso report	21
3.2 Troubleshooting	21
3.3 What do we gather in our Lasso report?	21
3.4 Detailed breakdown of gathered data	22
3.4.1 GNU/Linux オペレーティングシステム ### barman crontab/cron (barman_crontab_cron)	22
3.4.2 Microsoft Windows オペレーティングシステム ### PEM 構成 - Windows (pem_configuration_windows)	48
3.4.3 PostgreSQL/PGD3 nstance ### 現在のアーカイバー統計 (postgresql_archiver)	55

3.4.4	すべての Postgres / BDR3 データベースの詳細### PGD1 レプリケーションスロット (postgresql_db_bdr1_replication_slots)	68
3.4.5	Barman (Backup and Recovery Manager) ### Barman チェック (barman_check)	94
3.5	Servers accepting upload of reports	96

Lasso レポートは、サポート性チェック、ヘルスチェック、インシデント対応調査など、Postgres または関連ツールの既存のインストールに対して EDB によって提供される評価および評価プロセスの最初のステップです。

自動化された方法と監視された方法の両方で生成できます。

Lasso レポートのフェーズ 1 では、一部の情報は自動ツールを通じて非侵襲的な方法で収集できます。他の情報の中には、(少なくとも非侵襲的な方法では) 自動的に検出されないものもあります。フェーズ 2 では、Lasso レポートの一部としてこれを伝える必要があります。

収集した情報をフェーズ 3 で EDB エンジニアに返却した後、EDB はデータ分析を進めます。次に、次のいずれかのステップとなります。

- オファー（初期評価の場合）
- Postgres サーバーのステータスと健全性を評価する最終レポート（ヘルスチェックサービスの場合）

重要: チェックする基になるシステム、特にネットワークとハードウェアの構成に関するすべての関連情報を EDB に提供する必要があります。

第1章 Phase 1

1.1 Automated diagnostics gathering

自動診断収集のプロセスは、Python で記述された小さなマルチプラットフォームアプリケーションによって実行されます。

Postgres がインストールされていないシステムで Lasso を実行して、基になるオペレーティングシステムに関するすべての関連情報を収集することもできます。

ご使用のオペレーティングシステムに固有の情報を参照してください。

重要: Lasso はデータに影響を与えることはできません。Postgres サーバーから統計情報と診断情報を収集し、ワークロードにわずかな影響を与えます。Postgres ユーザーテーブルの行から*実際のデータ*は収集されません。²

1.2 Downloading Lasso

EDB は、Lasso と呼ばれる小さなマルチプラットフォームアプリケーションを開発しました。Postgres や、Barman などの関連するサポートソフトウェアが実行されているシステムで関連する診断データを安全に収集できます。

EDB は、[Customer Portal](#) を介してアプリケーションをバイナリ形式で配布します

認証手段として **会社トークン** を使用して、顧客に使用を許可します。

重要: Lasso は使い捨てアプリケーションと考えてください。アプリケーションは継続的デプロイモードであるため、レポート（または一連のレポート）をエクスポートする前に、常にアプリケーションをダウンロードしてください。

システムに Lasso をダウンロードするには、ポータル左側のパネルにある **Lasso** リンクを使用します。

EnterpriseDB のインフラストラクチャへの外部アクセスなしで、会社が隔離されたネットワークシステム用に Lasso のバージョンを要求しない限り、`--upload` オプションを使用して Lasso から生成された tarball を直接アップロードできます。詳細については、

[Servers accepting upload of reports](#) を参照してください。

² : 収集された診断データファイルは、検査に利用できます。

または、ポータルを介して特定のサポートチケットにレポートを添付するか、会社のページから **サポートオペレーション>レポートのアップロードメニュー**を使用できます。

1.3 Linux systems

1.3.1 要件

Glibc 2.5 以降

1.3.2 Postgres と BDR3 レポート

ユーザー postgres として、Lasso バイナリをフォルダーにコピーします。

重要: Postgres サーバプロセスを実行するのと同じユーザーがコマンドを実行する必要があります。ユーザーは、現在の作業ディレクトリに書き込む権限を持っている必要があります。

標準の Lasso ランは以下で構成されます。

```
./lasso
```

Lasso は、現在の作業ディレクトリに出力ファイルを書き込みます。

警告: Lasso は一時ディレクトリからファイルを実行する必要があります。システムの一時ディレクトリが *noexec* フラグでマウントされている場合、次のエラーが発生します。

```
./lasso: error while loading shared libraries:
libz.so.1: failed to map segment from shared object:
Operation not permitted
```

その場合、TMPDIR 環境変数を使用して、別の一時ファイルの場所を指定できます。

```
TMPDIR=/some/alternate/tmp/location ./lasso`
```

重要: ローカルインスタンスで実行する場合、Lasso には Postgres 10 以降で使用可能な pg_monitor ロールに属するユーザーが必要です。10 より前は、スーパーユーザーとして実行する必要があります。詳細については、PostgreSQL ドキュメントの [Default Roles](#) を参照してください。

Lasso は、サポートされているすべてのバージョンの EDB Postgres Distributed (PGD) および pglogical に関連する情報を透過的に収集します。

1.3.3 Barman レポート

Lasso は、Barman がインストールされているシステムで実行できます。その場合、分析中に役立つバーマン関連の情報とシステム情報を収集します。

ユーザー barman として、Lasso バイナリをフォルダーにコピーします。

重要: Barman プロセスを実行するのと同じユーザーとしてコマンドを実行する必要があり、現在の作業ディレクトリに書き込むための十分な権限が必要です。RPM/DEB パッケージを使用して Barman をインストールした場合、Barman はユーザー barman として実行するように構成されます。

Lasso が barman ユーザーとして実行され、予想される場所、通常は/etc/barman.conf で構成ファイルを探す場合、Barman レポートはデフォルトで有効になっています。詳細については、`man 5 barman` と入力してください。

一般に、EDB 認定の RPM および DEB パッケージを使用して Barman をインストールした場合、必要なのは barman ユーザーとして Lasso を実行することだけです。

Barman のカスタムインストールの管理

Barman のカスタムインストールがある場合、`--barman` オプションを Lasso に渡すことで、barman レポートを有効にできます。

```
./lasso --barman
```

次のように`--barman-configuration` オプションを使用して、特定のグローバル構成ファイルを指すこともできます。

```
./lasso --barman-configuration /opt/barman/barman.conf
```

1.3.4 Replication Manger (repmgr) レポート

Lasso は、repmgr がインストールされているシステムで実行できます。その場合、repmgr 関連の情報を収集します。

一般に、EDB 認定の RPM および DEB パッケージを使用して repmgr をインストールした場合、必要なのは Lasso を実行することだけです。

Lasso が repmgr 構成ファイルを見つける方法

Lasso は、repmgr 構成ファイルを識別しようとするときに次のアプローチを使用します。最初に見つけたものを使用します。

1. `--repmgr-configuration` オプションが指定されている場合、それを介して提供されたものを使用します。
2. パッケージが提供するパスを確認します。たとえば、CentOS / RHEL パッケージでは、構成ファイルは通常 `/etc/repmgr/<PG_VERSION>/repmgr.conf` の下に置かれます。Lasso は、これらのフォルダーが存在する場合は降順で検査し、見つかった最初の repmgr 構成ファイルを使用します。
3. 現在のディレクトリに `repmgr.conf` ファイルが存在するかどうかを確認します。
4. `/etc/repmgr.conf` ファイルが存在するかどうかを確認します。
5. `repmgr.conf` ファイルの `pg_config --sysconfdir` で指定されたパスを確認します。
6. `systemctl cat <service_name>` の出力を確認します。`<service_name>` は、名前に `repmgr` が含まれるサービスです。サービスユニットファイルから `repmgr.conf` ファイルを取得しようとします。アプローチ 2 と同じように、ユニットを降順でチェックし、最初に一致したものを使用します。

repmgr のカスタムインストールの管理

次のように `--repmgr-configuration` オプションを使用して、特定の repmgr 構成ファイルをポイントできます。

```
./lasso --repmgr-configuration /opt/repmgr/repmgr.conf
```

Lasso が自動的に見つけようとするのではなく、正しい repmgr 構成ファイルを使用することが保証されるため、このアプローチが推奨されます。

1.3.5 Postres Enterprise Manager (PEM) レポート

Lasso は、PEM がインストールされているシステムで実行できます。その場合、いくつかの構成ファイルやサービスに関する情報など、PEM 関連の情報も収集します。

Lasso は、構成ファイルの既知のパスと、既知のサービス名を検査します。カスタム PEM インストールがある場合、Lasso は関連情報を収集しません。

1.3.6 フェールオーバーマネージャー (EFM) レポート

Lasso は、EFM がインストールされているシステムで実行できます。その場合、EFM 関連の情報を収集します。

一般に、EDB 認定の RPM および DEB パッケージを使用して EFM をインストールした場合、必要なのは Lasso を実行することだけです。

Lasso が EFM 構成ファイルを見つける方法

Lasso は、EFM 構成ファイルを識別しようとするときに次のアプローチを使用します。最初に見つけたものを使用します。

1. `--efm-configuration` オプションが指定されている場合、それを介して提供されたものを使用します。
2. パッケージが提供するパスを確認します。構成ファイルは通常 `/etc/edb/efm-<EFM_VERSION>/efm.properties` の下に置かれます。Lasso は、これらのフォルダーが存在する場合は降順で検査し、見つかった最初の EFM 構成ファイルを使用します。
3. `systemctl cat <service_name>` の出力を確認します。`<service_name>` は、名前が `edb-efm-` で始まるサービスに置き換えられます。次に、サービスユニットファイルから `efm.properties` ファイルを取得しようとします。アプローチ 2 と同じように、ユニットを降順でチェックし、最初に一致したものを使用します。

Lasso が EFM バイナリを見つける方法

Lasso は、パッケージが提供するパスを検査します。バイナリファイルは通常 `/usr/edb/efm-<EFM_VERSION>/bin/efm` の下に置かれます。Lasso は、これらのフォルダーが存在する場合は降順で検査し、検出した最初の EFM バイナリファイルを使用します。

EFM のカスタムインストールの管理

次のように `--efm-configuration` オプションを使用して、特定の EFM 構成ファイルをポイントできます。

```
./lasso --efm-configuration /opt/EFM/efm.properties
```

Lasso が自動的に見つけようとするのではなく、正しい EFM 構成ファイルを使用することが保証されるため、このアプローチが推奨されます。

1.3.7 Replication Server (xDB) レポート

Lasso は、xDB がインストールされているシステムで実行できます。その場合、xDB 関連の情報を収集します。

一般に、EDB 認定の RPM パッケージまたは bitrock インストーラーを使用して xDB をインストールした場合、必要なのは Lasso を実行することだけです。

Lasso が xDB 構成ファイルを見つける方法

Lasso は、xDB 構成ファイルを識別しようとするときに次のアプローチを使用します。最初に見つけたものを使用します。

1. `--xdb-pubserver-configuration` および `--xdb-subserver-configuration` オプションが指定されている場合、それらを介して提供されたものを使用します。
2. xDB 7 RPM パッケージと bitrock インストーラーによって提供されるパスを確認します。構成ファイルは通常 `/etc/edb/xdb/etc` の下に置かれます。Lasso は、このフォルダーが存在する場合は検査し、そのフォルダーの下にある `xdb_pubserver.conf` および `xdb_subserver.conf` ファイルを使用します。
3. xDB 6 RPM パッケージと bitrock インストーラーによって提供されるパスを確認します。通常、これはそれぞれ `/usr/ppas-xdb-<XDB_VERSION>/etc` および `/opt/PostgreSQL/EnterpriseDB-xDBReplicationServer/etc` です。Lasso はこれらのフォルダーを検査し、存在する場合は、フォルダーの下にある `xdb_pubserver.conf` および `xdb_subserver.conf` ファイルを使用します。RPM パッケージの場合、フォルダーがたくさんある可能性があるため、最新の XDB バージョンから最も古いものまで検査されます。

Lasso が xDB バイナリを見つける方法

Lasso は、xDB バイナリファイルを識別しようとしているときに、次のアプローチを使用します。最初に見つけたものを使用します。

1. xDB 7 RPM パッケージと bitrock インストーラーが提供するパスを確認します。バイナリファイルは通常 `/etc/edb/xdb/bin` の下に置かれます。Lasso は、このフォルダーが存在する場合は検査し、そのフォルダーの下にある `edb-repcli.jar` ファイルを使用します。
2. xDB 6 RPM パッケージと bitrock インストーラー、通常はそれぞれ `/usr/ppas-xdb-<XDB_VERSION>/bin` と `/opt/PostgreSQL/EnterpriseDB-xDBReplicationServer/bin` によって提供されるパスを確認します。Lasso はこれらのフォルダーを検査し、存在する場合は、フォルダーの下にある `edb-repcli.jar` ファイルを使用します。RPM パッケージの場合、フォルダーがたくさんある可能性があるため、最新の XDB バージョンから最も古いものまで検査されます。

EFM のカスタムインストールの管理

次のように`--xdb-pubserver-configuration` および `--xdb-subserver-configuration` オプションを使用して、特定の xDB パブリケーションまたはサブスクリプションサーバー構成ファイルをポイントできます。

```
./lasso --xdb-pubserver-configuration /opt/xDB/pubserver.conf --xdb-subserver-  
→configuration /opt/xDB/subserver.conf
```

Lasso が自動的に見つけようとするのではなく、正しい xDB 構成ファイルを使用することが保証されるため、このアプローチが推奨されます。

1.3.8 PgBouncer レポート

Lasso は、PgBouncer がインストールされているシステムで実行できます。その場合、PgBouncer 関連の情報を収集します。

一般に、EDB 認定の RPM および DEB パッケージを使用して PgBouncer をインストールし、PgBouncer インスタンスが稼働している場合、必要なのは Lasso を実行することだけです。

Lasso が PgBouncer 構成ファイルを見つける方法

Lasso は、実行中のプロセスのリストを使用して PgBouncer プロセスを識別し、そこから取得した構成ファイルを使用します。

Lasso 引数`--pgbouncer-configuration` を介して、1 つ以上の PgBouncer 構成ファイルを指定することもできます。これは、主に PgBouncer インスタンスが実行されていないシナリオ、または Lasso がプロセスリストから構成ファイルを検出できない場合に役立ちます。

Lasso は、識別されたすべての PgBouncer インスタンスから情報を収集します。

1.3.9 HARP レポート

Lasso は、HARP がインストールされているシステムで実行できます。その場合、HARP 関連の情報を収集します。

一般に、EDB 認定の RPM および DEB パッケージを使用して HARP をインストールした場合、必要なのは Lasso を実行することだけです。

Lasso が HARP 構成ファイルを見つける方法

Lasso は、HARP 構成ファイルを識別しようとするときに次のアプローチを使用します。最初に見つけたものを使用します。

1. `--harp-configuration` オプションが指定されている場合、それを介して提供されたものを使用します。
2. `/etc/harp/config.yml` ファイルが存在するかどうかを確認します。

HARP のカスタムインストールの管理

次のように `--harp-configuration` オプションを使用して、特定の HARP 構成ファイルをポイントできます。

```
./lasso --harp-configuration /opt/harp/config.yml
```

Lasso が自動的に見つけようとするのではなく、正しい HARP 構成ファイルを使用することが保証されるため、このアプローチが推奨されます。

HARP プロキシノードで Lasso を実行する

HARP プロキシノードは、アプリケーションからの接続のプロキシとしてのみ意図されているため、Postgres または EDB Postgres Advanced Server サービスを実行していません。

Lasso を使用して HARP プロキシノードから情報を収集する場合、`--system-only` オプションを使用して、データベースサーバーに接続しようとしなくする必要があります。

1.3.10 etcd レポート

Lasso は、etcd がインストールされているシステムで実行できます。その場合、etcd 関連の情報を収集します。

Lasso が etcd 構成ファイルを見つける方法

Lasso は、etcd 構成ファイルを識別しようとするときに次のアプローチを使用します。最初に見つけたものを使用します。

1. `--etcd-configuration` オプションが指定されている場合、提供されたものを使用します。
2. `/etc/etcd/etcd.conf` ファイルが存在するかどうかを確認します。

1.3.11 システムのみのレポート

Lasso は、Postgres または Barman がインストールされていないシステムでも実行して、基になるオペレーティングシステムに関するすべての関連情報を収集することもできます。

次のコマンドを使用して、システムのみのレポートを実行できます。

```
./lasso --system-only
```

1.4 Windows systems

1.4.1 要件

Windows Server 2008 r2 以降

1.4.2 使用法

フォルダー内の配布用 zip ファイルを展開します。

標準の Lasso ランは以下で構成されます。

```
lasso.exe
```

重要: プロセスは、昇格したコマンドプロンプト、または*管理者として実行**コンテキストメニューオプションなど、昇格した環境で実行する必要があります。

Lasso は、出力ファイルを作業ディレクトリに書き込みます。

重要: Lasso は 64 ビットの実行可能ファイルとして配布されています。

1.4.3 Postgres Enterprise Manager (PEM) レポート

Lasso は、PEM がインストールされているシステムで実行できます。その場合、いくつかの構成ファイルやサービスに関する情報など、PEM 関連の情報も収集します。

Lasso は、構成ファイルの既知のパスと、既知のサービス名を検査します。カスタム PEM インストールがある場合、Lasso は関連情報を収集しません。

1.4.4 Replication Server (xDB) レポート

Lasso は、xDB がインストールされているシステムで実行できます。その場合、xDB 関連の情報を収集します。

一般に、EDB 認定パッケージを使用して xDB をインストールした場合、必要なのは Lasso を実行することだけです。

Lasso が xDB 構成ファイルを見つける方法

Lasso は、xDB 構成ファイルを識別しようとするときに次のアプローチを使用します。最初に見つけたものを使用します。

1. `--xdb-pubserver-configuration` および `--xdb-subserver-configuration` オプションが指定されている場合、それらを介して提供されたものを使用します。
2. xDB 7 パッケージが提供するパスを確認します。構成ファイルは通常 `<drive>:\Program Files\edb\EnterpriseDB-xDBReplicationServer\etc` の下に置かれます。Lasso は、このフォルダーが存在する場合は検査し、そのフォルダーの下にある `xdb_pubserver.conf` および `xdb_subserver.conf` ファイルを使用します。
3. xDB 7 パッケージが提供するパスを確認します。構成ファイルは通常 `<drive>:\Program Files\PostgreSQL\EnterpriseDB-xDBReplicationServer\etc` の下に置かれます。Lasso は、このフォルダーが存在する場合は検査し、そのフォルダーの下にある `xdb_pubserver.conf` および `xdb_subserver.conf` ファイルを使用します。

Lasso が xDB バイナリを見つける方法

Lasso は、xDB バイナリファイルを識別しようとしているときに、次のアプローチを使用します。最初に見つけたものを使用します。

1. xDB 7 パッケージが提供するパスを確認します。バイナリファイルは通常 `<drive>:\Program Files\edb\EnterpriseDB-xDBReplicationServer\bin` の下に置かれます。Lasso は、このフォルダーが存在する場合は検査し、そのフォルダーの下にある `edb-repcli.jar` ファイルを使用します。
2. xDB 7 パッケージが提供するパスを確認します。バイナリファイルは通常 `<drive>:\Program Files\PostgreSQL\EnterpriseDB-xDBReplicationServer\bin` の下に置かれます。Lasso は、このフォルダーが存在する場合は検査し、そのフォルダーの下にある `edb-repcli.jar` ファイルを使用します。

EFM のカスタムインストールの管理

次のように`--xdb-pubserver-configuration` および `--xdb-subserver-configuration` オプションを使用して、特定の xDB パブリケーションまたはサブスクリプションサーバー構成ファイルをポイントできます。

```
lasso.exe --xdb-pubserver-configuration C:\xDB\pubserver.conf --xdb-subserver-  
→configuration C:\xDB\subserver.conf
```

Lasso が自動的に見つけようとするのではなく、正しい xDB 構成ファイルを使用することが保証されるため、このアプローチが推奨されます。

システムのためのレポート

Lasso は、Postgres がインストールされていないシステムでも実行して、基になるオペレーティングシステムに関するすべての関連情報を収集することもできます。

次のコマンドを使用して、システムのためのレポートを実行できます。

```
lasso.exe --system-only
```

1.5 Common considerations

Lasso は `libpq` 環境変数を使用して Postgres 接続パラメーターを取得します。[PostgreSQL documentation](#) に環境変数のリストがあります。

他のオプションの中でも特に接続パラメーターは、コマンドライン引数として渡すこともできます。

```
usage: lasso [-h] [-H HOST_NAME] [-p PORT] [--password PASSWORD]
            [--lock-timeout LOCK_TIMEOUT]
            [--statement-timeout STATEMENT_TIMEOUT] [--bindir BINDIR]
            [--depth [{surface,shallow,deep}]]
            [--describe [{short,json,full}]] [--version] [--latest-version]
            [--system-only | --barman]
            [--barman-configuration BARMAN_CONFIGURATION]
            [--repmgr-configuration REPMGR_CONFIGURATION]
            [--efm-configuration EFM_CONFIGURATION]
            [--xdb-pubserver-configuration XDB_PUBSERVER_CONFIGURATION]
            [--xdb-subserver-configuration XDB_SUBSERVER_CONFIGURATION]
            [--pgbouncer-configuration PGBOUNCER_CONFIGURATION]
            [--harp-configuration HARP_CONFIGURATION]
            [--etcd-configuration ETCD_CONFIGURATION]
            [--upload] [--keep-report] [--is-latest-version]
            [dbname] [user]
```

(次のページに続く)

EDB Lasso

positional arguments:

dbname	Database name to connect to (default root)
user	Database user name (default root)

optional arguments:

-h, --help	show this help message and exit
-H HOST_NAME, --host-name HOST_NAME	Database host name or socket directory (default local socket)
-p PORT, --port PORT	Database server port (default 5432)
--password PASSWORD	Database server password
--lock-timeout LOCK_TIMEOUT	Database connection lock timeout (default 3s)
--statement-timeout STATEMENT_TIMEOUT	Database connection statement timeout (default 5min)
--bindir BINDIR	Postgres binaries directory (autodetect by default)
--depth [{surface,shallow,deep}]	Depth of the report (default deep)
--describe [{short,json,full}]	Describes every single module, in terms of action and output
--version	Shows Lasso version and modules revision
--latest-version	Shows the latest available version of EDB Lasso, taken from the EDB Web Services
--system-only	Gather only system-related information - without requiring a Postgres connection
--barman	Gather Barman status, enabled by default when Lasso is run as barman user and the executable exists. Defaults to False . When Barman reporting is enabled, we do not gather Postgres related information
--barman-configuration BARMAN_CONFIGURATION	Barman configuration file. By default use the native algorithm in Barman to find the configuration file. Valid only if Barman reporting is enabled
--repmgr-configuration REPMGR_CONFIGURATION	Path to the repmgr.conf file, if using a non-default path
--efm-configuration EFM_CONFIGURATION	Path to the EFM properties file, if using a non-default path
--xdb-pubserver-configuration XDB_PUBSERVER_CONFIGURATION	Path to the xDB publication server configuration file, if using a non-default path

(次のページに続く)

(前のページからの続き)

```

--xdb-subserver-configuration XDB_SUBSERVER_CONFIGURATION
    Path to the xDB subscription server configuration
    file, if using a non-default path
--pgbouncer-configuration PGBOUNCER_CONFIGURATION
    Path to the pgbouncer.ini file. You can specify multiple
    files separated by comma
--harp-configuration HARP_CONFIGURATION
    Path to the config.yml file, if using a non-default
    path
--etcd-configuration ETCD_CONFIGURATION
    Path to the etcd.conf file, if using a non-default
    path
--upload
    Report tarball file is sent to EDB at the end of the
    execution. The file will be removed if successfully
    uploaded unless --keep-report is specified
--keep-report
    Keep a local copy of the report even after a
    successful upload to EDB
--is-latest-version
    Only check if this is the latest available version of
    Lasso and returns exit code 0 if this is the latest
    version and 1 otherwise

```

Lasso の構成ファイルを使用することもできるため、環境で必要になる可能性のあるコマンドラインオプションのほとんどを省略することができます。Lasso は、次のパスでこの順序で構成ファイルを探します。

1. Lasso が実行されているのと同じディレクトリの ./edb-lasso.cfg
2. Lasso が実行されているのと同じディレクトリの ./edb-lasso.conf
3. \$HOME/.edb-lasso.conf
4. /etc/edb-lasso.conf

最初の一致を使用します。

構成ファイルのテンプレートファイルは次のようになります。

```

; Lasso template configuration file
;
; Copyright (C) EnterpriseDB UK Limited 2015-2022 - All Rights Reserved.
; Licensed only for use with an EnterpriseDB subscription

[customer]
; the "Company code" from the customer page in the EDB Portal
id=
; the "Token" from the customer page in the EDB Portal
token=
; the depth of the Lasso report. Must be one between: surface, shallow and deep
depth=deep

```

(次のページに続く)

```
[postgresql]
; Lasso uses the following connection string parameters to connect to your
; PostgreSQL cluster and take diagnostics. By default it will attempt a peer
; connection to socket under directory /var/run/postgresql
; dbname=
; user=
; port=
; hostname can be a host or a socket directory
; hostname=/var/run/postgresql
; password=

; session variable to control timeout on lock waits
; lock_timeout=3s
; session variable to control statement execution time
; statement_timeout=5min

[environment]
; PostgreSQL binaries directory. Lasso will try to detect this automatically if
; not set
; bindir=
; if the host is able to access the internet and reach the EDB servers to upload
; Lasso reports
; external_access=yes

[barman]
; path to barman.conf, if using a non-default one
; configuration=

[repmgr]
; path to repmgr.conf, if using a non-default one
; configuration=

[efm]
; path to efm.properties, if using a non-default one
; configuration=

[xdb]
; path to xdb_pubserver.conf, if using a non-default one
; pubserver_configuration=
; path to xdb_subserver.conf, if using a non-default one
; subserver_configuration=

[pgbouncer]
; path to pgbouncer.ini, if using a non-default one
```

(次のページに続く)

(前のページからの続き)

```
; configuration=

[harp]
; path to config.yml, if using a non-default one
; configuration=
```

このテンプレートを使用して、構成ファイルをセットアップできます。目的のパラメーターのコメントを外し、環境に合わせて値を設定します。

DEB または RPM パッケージから Lasso をインストールした場合、同じテンプレート構成ファイルが/etc/edb-lasso.conf.templ にあります。

重要: DEB または RPM パッケージから Lasso をインストールした場合、少なくとも顧客 ID とトークンセットを含む構成ファイルが必要です。バイナリに埋め込まれた変数を含む Lasso 使い捨てバイナリを実行している場合、これは必要ありません。

このスクリプトは、収集されたデータを含む_TAR ファイル_を生成します。このファイルは、プロセスの一環として EDB エンジニアに返すか、--upload オプションを使用して自動的に送信する必要があります。

重要: 一部の企業は、Lasso が隔離されたネットワークで動作するように要求しています。その場合、--upload オプションは許可されません。（この設定は、ポータルの会社ページから、または '--version' ランタイムオプションを介して簡単に確認できます。）この機能を利用するには、Lasso によって分析されるサーバーが、最前線のいずれかの 443 ポートにアクセスできることを確認してください。 [Servers accepting upload of reports](#) にリストされている Web サイト。

Postgres がインストールされていないサーバーで Lasso を使用することもできます。その場合、--system-only オプションを使用し、生成される_TAR ファイル_にはシステム関連の情報のみが含まれます。

1.5.1 セキュリティ上の考慮事項

データベースでクエリを実行するとき、Lasso は、メトリックが収集されているツールから必要な情報を収集するのに十分な特権を持つロールを使用しようとします。

以下は、Lasso がそれぞれ使用しようとするツールとロールです。Lasso は、各ツールロールリストで最初に使用可能なロールを使用しようとします。**初期接続ロール** は、ツールの実行時に Lasso CLI を介して提供されたロールを意味します。通常、postgres または enterprisedb。

- PostgreSQL： - pg_monitor - 初期接続ロール
- PgLogical： - pglogical_superuser - 初期接続ロール
- PGD： - bdr_monitor - 初期接続ロール
- PEM： - pem_user - 初期接続ロール

- repmgr： - 初期接続ロール
- xDB： - 初期接続ロール

PGD の収集のほとんどは、bdr_monitor ロールを使用しようとしています。ただし、競合の収集を担当するそのうちの 1 人は、その目的のためにロール bdr_read_all_conflicts を使用しようとしています。それが唯一の例外です。

いずれの場合も、データベースからメトリックと構成を照会中に読み取り専用トランザクションを使用します。

第2章 Phase 2

2.1 Supervised Lasso report generation

Lasso は特定の情報を検出できません。可用性やディザスタリカバリーなどのビジネス継続性の実装を含む、Postgres を実行しているサーバーとデータベースシステムアーキテクチャに関する詳細情報を提供する必要があります。

以下は、ネットワーク、システム、およびデータベース管理者への質問の包括的なリストではありません。(追加情報が必要な場合があります。)

2.1.1 一般的なアーキテクチャ

- データベースの主なユースケースは何ですか? - クライアントアプリケーションとツール - フレームワークとプログラミング言語
- Postgres の現在の高可用性戦略は何ですか?
- Postgres の現在のディザスタリカバリー戦略は何ですか? - バックアップ戦略を説明してください。
- 定期的にテストされていますか? - バックアップのリカバリとテスト専用のハードウェアはありますか?
- Postgres の接続プーラーを使用していますか? はいの場合、どれですか?
- データベースサーバー周辺のネットワークアーキテクチャは何ですか?

2.1.2 ハードウェア関連

- ディスクの構成は何ですか? - ディスクのブランドとモデル - コントローラ/インターフェイスのブランドとモデル (該当する場合) - ディスク管理用のデバイス (SAN、NAS など) のブランドとモデル (該当する場合) - RAID 構成 (該当する場合) ライトキャッシュ-バッテリーのステータス (該当する場合) - マルチパス構成 (該当する場合) - LVM 物理ボリュームダンプ (該当する場合)
- サーバーは UPS で保護されていますか?

2.1.3 ソフトウェア関連

- サーバーは仮想ですか？ - 仮想化にはどのテクノロジーが使用されていますか？
- ソフトウェア RAID 構成（該当する場合）
- トレンド/モニタリングツール（つまり、Cacti、ZenOS、Zabbix など）を使用していますか？
- アラートツール（つまり、Nagios / Icinga、ZenOS、Zabbix など）を使用していますか？
- Postgres でのレプリケーションにレコードベースのソフトウェア（つまり、Slony、Bucardo、Londiste など）を使用しますか？
- pg_upgrade ツールを使用して Postgres サーバーをアップグレードしたことがありますか？この方法でアップグレードしたバージョンは何ですか？

2.1.4 アマゾン ウェブ サービス (AWS)

Amazon インスタンスに Postgres がある場合：

- AWS を使用している場合、インスタンスのサイズはどのくらいですか？
- サーバーの地域に関する情報を提供できますか？
- CloudWatch を使用していますか？
- VPC を使用していますか？
- S3 バックアップの場合、バックアップとアーカイブに暗号化を使用していますか？

第3章 Phase 3

3.1 Returning the Lasso report

単一インスタンスに関するなげなわレポートは、次の情報を EDB の連絡先に返すと終了します。

1. フェーズ 1 の TAR ファイルを、**レポートのアップロードメニュー**を使用してポータルにアップロードするか、特定のチケットの添付ファイルとしてアップロードします。
2. ポータルの **マイドキュメント**セクションにアップロードして、フェーズ 2 の質問への回答を含むドキュメント

3.2 Troubleshooting

Lasso のサポートと支援については、EDB の担当者にお問い合わせください。

3.3 What do we gather in our Lasso report?

Lasso レポートは、EDB エンジニアがオペレーティングシステムと Postgres サーバーから関連情報を取得することにより、データベースのパルスをすばやく感じられるように設計されています。

次のように入力すると、lasso を介してシステムから収集された情報の詳細な説明を含むリストを取得できます。

```
lasso --describe
```

詳細については、EDB のアカウントマネージャーにお問い合わせください。

なげなわは、システムをこするときに深さのレベルを通知します。3つのレベルがあります。

- **表面**：非侵襲的な収集プロセス。主にインスタンスのサポート可能性チェックを実行するために使用され、現在の瞬間に焦点を合わせます。Postgres に関しては、インスタンス、その構成、およびその一般的な状態に焦点が当てられています。このレベルは、スクレイピングの最小レベルです。
- **浅い**：基本的な傾向データを含む、パフォーマンス関連の情報の収集。Postgres データに関しては、その焦点はデータベースに移されます。このレベルは、サポートインシデントの解決に適しています。
- **Deep**：スクレイピングの最も詳細なレベル。高度なセキュリティヘルスチェックに適していますが、重大なサポートインシデントにも適しています。Postgres データに関しては、テーブルとインデックスに焦点を当てています。

3.4 Detailed breakdown of gathered data

3.4.1 GNU/Linux オペレーティングシステム ### barman crontab/cron (barman_crontab_cron)

説明

barman として実行している場合、`crontab -l` からの出力。`/etc/cron.d/barman` のコンテンツ（存在する場合）。

レポート出力

- ファイル/linux/barman_cron.data : /etc/cron.d/barman のコンテンツ、存在する場合
- ファイル/linux/barman_crontab.data : barman ユーザーの場合、`barman crontab -l` からの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - 機密データを含む `crontab / cron` にエントリがある可能性があります

debug_sources (debug_sources)

説明

`/usr/src/debug` の下のファイルをカウントして、システムに存在するアプリケーションのソースコードを検出し、ライブデバッグを容易にします

レポート出力

ファイル/linux/debug_sources.data : GNU デバッガーのソース

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -セキュリティへの既知の影響なし

EFM CLI (efm_cli)

説明

efm cluster-status コマンドの出力を取得します

レポート出力

ファイル/tools/efm/cli/cluster_status.out :efm cluster-status <cluster_name> コマンドの出力

深さ

Surface ##### セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

EFM 構成 (efm_configuration)

説明

EFM のプロパティとノードの構成ファイル

レポート出力

- ファイル/tools/efm/config/efm.nodes : EFM ノードファイル
- ファイル/tools/efm/config/efm.properties : EFM プロパティファイル

深さ

Surface ##### セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

EFM systemctl (efm_systemctl)

説明

EFM サービスが検出されると、対応するサービスのステータスと cat を収集します。名前が edb-efm- で始まるサービスをチェックします。

レポート出力

- ファイル/tools/efm/systemd/<service_name>_cat.data : ' systemctl cat の出力
- ファイル/tools/efm/systemd/<service_name>_status.data : ' systemctl status の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

etcd CLI (etcd_cli)

説明

サーバーで etcdctl が利用可能な場合、いくつかの etcdctl コマンドの出力を収集します。コマンドは endpoint status と endpoint health です。

レポート出力

- ファイル/tools/etcd/cli/endpoint_status.out : etcdctl endpoint status コマンドの出力
- ファイル/tools/etcd/cli/endpoint_health.out : etcdctl endpoint health コマンドの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

etcd 構成 (etcd_configuration)

説明

サーバーで見つかった etcd 構成ファイルを収集します

レポート出力

ファイル/tools/etcd/config/<basename> : etcd 構成ファイル

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

etcd systemctl (etcd_systemctl)

説明

etcd サービスが検出されると、対応するサービスのステータスと cat を収集します。名前が etcd で始まるサービスをチェックします。

レポート出力

- ファイル/tools/etcd/systemd/<service_name>_cat.data : ' systemctl cat の出力
- ファイル/tools/etcd/systemd/<service_name>_status.data : ' systemctl status の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

HARP CLI (harp_cli)

説明

サーバーで見つかった config.yml ファイルを使用して、いくつかの harpctl コマンド出力の出力を収集します。コマンドは次のとおりです。cluster、proxies、locations、nodes、および version。

レポート出力

- ファイル/tools/harp/cli/version.out :harp -f <conf_file_path> version コマンドの出力
- ファイル/tools/harp/cli/proxies.out :harp -f <conf_file_path> get proxies -o yaml コマンドの出力
- ファイル/tools/harp/cli/nodes.out :harp -f <conf_file_path> get nodes -o yaml コマンドの出力
- ファイル/tools/harp/cli/locations.out :harp -f <conf_file_path> get locations -o yaml コマンドの出力
- ファイル/tools/harp/cli/cluster.out :harp -f <conf_file_path> get cluster -o yaml コマンドの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

HARP 構成 (harp_configuration)

説明

サーバーで見つかった HARP 構成ファイルを収集します

レポート出力

- ファイル/tools/harp/config/harp.cluster.init.yml : HARP ブートストラップ構成ファイル
- ファイル/tools/harp/config/<basename> : HARP 構成ファイル

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

HARP systemctl (harp_systemctl)

説明

HARP サービスが検出された場合、対応するサービスのステータスと cat を収集します。名前が **harp** で始まるサービスをチェックします。

レポート出力

- ファイル/tools/harp/systemd/<service_name>_cat.data : ' systemctl cat の出力
- ファイル/tools/harp/systemd/<service_name>_status.data : ' systemctl status の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ブロックデバイスのレイアウト (linux_block_devices_layout)

説明

lsblk コマンドからのブロックデバイスレイアウトに関する情報

レポート出力

ファイル/linux/lsbk.data :lsbk コマンド出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

プロセッサガバナー (linux_cpu_governor)

説明

/sys/devices/system/cpu のファイルからのプロセッサスケーリングガバナー

レポート出力

- ファイル/linux/sys/energy_perf_bias.data : インテルのパフォーマンスとエネルギーのバイアス属性
- ファイル/linux/sys/intel_pstate.data : インテル pstate 構成
- ファイル/linux/sys/cpu_scaling_driver.data : 利用可能な CPU スケーリングドライバー
- ファイル/linux/sys/cpu_scaling_available_governors.data : 利用可能な CPU スケーリングガバナー
- ファイル/linux/sys/cpu_scaling_governor.data : アクティブ CPU スケーリングガバナー

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - 既知のセキュリティへの影響はありません。

マウントされたファイルシステムと利用可能な領域 (`linux_devices_info`)

説明

`mount` コマンドを使用してマウントされたファイルシステムをリストし、`df` を使用して空き領域をリストします

レポート出力

- ファイル/linux/diskspace.data : 利用可能なディスク容量
- ファイル/linux/mount.data : `mount` コマンドの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ファイルシステム構成 (linux_disk_configuration)

説明

/etc/fstab ファイルから取得したディスク構成

レポート出力

ファイル/linux/fstab.data : /etc/fstab の内容

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

OS ディストリビューション、カーネル、およびデバイスデータ (linux_distro_collector)

説明

lsb_release コマンドによって返される、現在使用されている Linux ディストリビューションに関する情報

レポート出力

- ファイル/linux/release.data : 現在使用している Linux ディストリビューション
- File /linux/release_source.data : 採取したファイル、または実行したコマンドの名前

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ハードウェア (`linux_hardware_info`)

説明

`lspci` によるハードウェア情報

レポート出力

ファイル/`linux/lspci.data` : `lspci` からのハードウェア情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ハイパーバイザー (`linux_hypervisor_collector`)

説明

`systemd-detect-virt` コマンドによって返される、使用されている仮想化のタイプに関する情報

レポート出力

File `/linux/hypervisor.data` : 収集されたファイルまたは実行されたコマンドの名前

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

カーネル (`linux_kernel_info`)

説明

コマンド `uname` および `ipcs` の出力を `/proc` および `/sys` ファイルシステムの内容と組み合わせることにより得られる、カーネル情報、透過的な Huge Page のステータス、およびディスクスケジューラの構成

レポート出力

- File `/linux/read_ahead.data` : 先読みに関する情報
- ファイル `/linux/schedulers.data` : `/sys dir` からのスケジューラ情報
- ファイル `/linux/sys/kernel/mm/transparent_hugepage.data` : 透過的な huge pages 情報
- ファイル `/linux/ipcs.data` : `ipcs` コマンド出力
- ファイル `/linux/uname.data` : `uname` コマンド出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

カーネルの制限 (`linux_kernel_limits`)

説明

`pam_limits` モジュールの構成ファイル

レポート出力

ファイル/linux/limits.data : limits.conf ファイルの内容

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

プロセッサ使用統計 (linux_mpstat)

説明

mpstat コマンドからのプロセッサ統計。

レポート出力

ファイル/linux/mpstat.data : 「mpstat -P ALL 1 10」からの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ネットワークインターフェース (linux_network_interfaces)

説明

ip および ifconfig コマンドからのネットワークインターフェース情報

レポート出力

- ファイル/linux/ifconfig.data : 「ifconfig」からの出力
- ファイル/linux/ip_address_list.data : 「ip address list」からの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

rpm または dpkg を介してインストールされたパッケージ (linux_packages_info)

説明

rpm または dpkg を使用してインストールされたシステムパッケージに関する情報

レポート出力

- ファイル/linux/packages-dpkg.data : dpkg を使用してインストールされたパッケージのリスト
- ファイル/linux/packages-rpm.data : rpm を使用してインストールされたパッケージのリスト

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PostgreSQL ディスクレイアウト (linux_postgresql_disk_layout)

説明

リンクに `find` を使用し、ファイルに `ls` を使用して、Postgres データディレクトリ内のすべてのファイルをリストします

レポート出力

- ファイル/linux/pg_ls.data : データディレクトリ内のファイル一覧
- ファイル/linux/pg_links.data : データディレクトリ内のリンクのリスト

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

SELinux (linux_sestatus)

説明

sestatus からの SELinux ステータス

レポート出力

ファイル/linux/sestatus.data : 「setstatus」からの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

システム識別 (`linux_system_identity`)

説明

ホスト名、ネットワークインターフェイス、システム情報 (`uname`)、システム識別子、およびリリース情報を収集します

レポート出力

- ファイル/`linux/id/system_release.data` : `/etc/system-release` からの OS 情報
- ファイル/`linux/id/os_release.data` : `/etc/os-release` からの OS 情報
- ファイル/`linux/id/machine_id.data` : `/etc/machine-id` に含まれるマシン ID
- ファイル/`linux/id/uname.data` : 実行中のカーネルに関する情報
- ファイル/`linux/id/hostname.data` : 完全修飾ドメイン名
- ファイル/`linux/id/interfaces.data` : ホストのネットワークアドレス

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

dmesg および `/proc` 情報 (`linux_system_info`)

説明

`/proc` ファイルシステムの内容から、および `dmesg` コマンドの出力を通じたシステム情報。

レポート出力

- ファイル/linux/lsmmod.data : Lsmmod 出力
- ファイル/linux/dmesg_with_timestamp.data : Dmesg 出力 (人間が読める形式のタイムスタンプ)
- ファイル/linux/dmesg.data : dmesg 出力
- ファイル/linux/proc/sys_net_ipv4.data : /proc からのネットワーク情報
- ファイル/linux/proc/sys_vm.data : /proc からの vm 情報
- ファイル/linux/proc/sys_kernel.data : /proc からのカーネル情報
- ファイル/linux/vmstat.data : /proc からの VM 統計
- ファイル/linux/proc/mounts.data : /proc からのマウントポイント
- ファイル/linux/proc/uptime.data : /proc からの稼働時間情報
- ファイル/linux/proc/loadavg.data : /proc から avg をロード
- ファイル/linux/proc/meminfo.data : /proc からのメモリ情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - 既知のセキュリティへの影響はありません。

システムステータス-iostat (linux_system_status_iostat)

説明

iostat コマンドからのシステムステータス

レポート出力

ファイル/linux/iostat.data : I/O 統計に関する情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

システムステータス-**nfsiostat** (**linux_system_status_nfsiostat**)

説明

nfsiostat コマンドからのシステムステータス

レポート出力

ファイル/linux/nfsiostat.data : nfs I/O 統計

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

システムステータス-**ps** (**linux_system_status_ps**)

説明

ps コマンドからのシステムステータス

レポート出力

ファイル/linux/ps.data : アクティブプロセス情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -一部のプロセスには、名前に機密データが含まれる場合があります。

システムステータス-sar (`linux_system_status_sar`)

説明

sar コマンドからのシステムステータス

レポート出力

- ファイル/`linux/sar.data` : 実際の sar 情報
- ファイル/`linux/sar-yesterday.data` : 昨日の sar 情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

システムステータス - トップ (`linux_system_status_top`)

説明

top コマンドからのシステムステータス

レポート出力

File /linux/top.data : プロセス情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -一部のプロセスには、名前に機密データが含まれる場合があります。

システムステータス-vmstat (linux_system_status_vmstat)

説明

vmstat コマンドからのシステムステータス

レポート出力

ファイル/linux/vmstat.data : プロセス、メモリ、ページング、ブロック IO、トラップ、ディスク、および CPU アクティビティに関する情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

systemctl ユニット (linux_systemctl_units)

説明

systemd サーバー上の Systemctl list-units

レポート出力

ファイル/linux/systemctl-list-units.data : 「systemctl list-units」 の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

調整された (linux_tuned)

説明

Tuned のステータスとプロファイル

レポート出力

- ディレクトリ/linux/tuned/tune-profiles : /etc/tune-profiles のファイル
- ディレクトリ/linux/tuned/tuned : /etc/tuned のファイル
- ファイル/linux/tuned/tuned.conf : ファイル/etc/tuned.conf
- ファイル/linux/tuned/tuned-list.data : tuned_adm list からの出力
- ファイル/linux/tuned/tuned-active.data : tuned_adm active からの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PEM 構成 (pem_configuration)

説明

PEM エージェント、PEM サーバー、および PEM Web サーバーからの PEM 構成ファイル

レポート出力

- ファイル/tools/pem/config/edb-ssl-pem.conf : PEM Web サーバー SSL 構成ファイル
- ファイル/tools/pem/config/edb-pem.conf : PEM Web サーバー構成ファイル
- ファイル/tools/pem/config/install-config : PEM サーバー構成ファイル (インストール構成ファイル)
- ファイル/tools/pem/config/config_setup.py : PEM サーバーセットアップ構成ファイル
- ファイル/tools/pem/config/pem.wsgi : PEM サーバー WSGI 定義ファイル
- ファイル/tools/pem/config/agent.cfg : PEM エージェント構成ファイル

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PEM systemctl (pem_systemctl)

説明

PEM が検出されると、PEM エージェントと PEM Web サーバーのステータスとコンテンツを収集します

レポート出力

- ファイル/tools/pem/systemd/<service_name>_cat.data : ' systemctl cat の出力
- ファイル/tools/pem/systemd/<service_name>_status.data : ' systemctl status の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PgBouncer 構成 (pgbouncer_configuration)

説明

PgBouncer 構成ファイル

レポート出力

ファイル/tools/pgbouncer/<num>/config/<basename> : インスタンス<num> からの PgBouncer 構成ファイル

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PgBouncer systemctl (pgbouncer_systemctl)

説明

PgBouncer サービスが検出されると、対応するサービスのステータスと cat を収集します。PgBouncer 構成ファイルのいずれかを含むサービスを確認します。

レポート出力

- ファイル/tools/pgbouncer/<num>/systemd/<service_name>_cat.data : インスタンス<num> からの 'systemctl cat' の出力
- ファイル/tools/pgbouncer/<num>/systemd/<service_name>_status.data : インスタンス<num> からの 'systemctl status' の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - 既知のセキュリティへの影響はありません。

postgres/enterprisedb crontab (postgres_enterprisedb_crontab)

説明

postgres または enterprisedb として実行している場合、crontab -l からの出力

レポート出力

- ファイル/linux/enterprisedb_crontab.data : enterprisedb crontab -l からの出力、enterprisedb ユーザーの場合
- ファイル/linux/postgres_crontab.data : postgres からの出力 crontab -l、postgres ユーザーの場合

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - crontab/cron に機密データを含むエントリがある場合があります。

repmgr CLI (repmgr_cli)

説明

サーバーで見つかった `repmgr.conf` ファイルを使用して、`repmgr cluster crosscheck` および `repmgr daemon status` の出力を収集します

レポート出力

- ファイル `tools/repmgr/cli/daemon_status.out` : `repmgr daemon status -f <conf_file_path>` コマンドの出力
- ファイル `tools/repmgr/cli/cluster_crosscheck.out` : `repmgr cluster crosscheck -f <conf_file_path>` コマンドの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - 既知のセキュリティへの影響はありません。

repmgr 構成 (repmgr_configuration)

説明

サーバーで見つかった `repmgr` 構成ファイルを収集します

レポート出力

ファイル `tools/repmgr/config/repmgr.conf` : `repmgr` 構成ファイル

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

repmgr systemctl (repmgr_systemctl)

説明

repmgr サービスが検出されると、対応するサービスのステータスと cat を収集します。名前が `repmgr` で始まるサービスをチェックします。

レポート出力

- ファイル `/tools/repmgr/systemd/<service_name>_cat.data` : ' systemctl cat の出力
- ファイル `/tools/repmgr/systemd/<service_name>_status.data` : ' systemctl status の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

xDB CLI (xdb_cli)

説明

実行中の xDB パブリケーションおよびサブスクリプションサーバーからの、いくつかの CLI コマンドからの xDB 出力

レポート出力

- Directory `/tools/xdb/cli` : xDB CLI 印刷コマンド

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

xDB 構成 (xdb_configuration)

説明

xDB 構成ファイル

レポート出力

- ファイル/tools/xdb/config/xdbReplicationServer.config : xDB スタートアップ構成
- ファイル/tools/xdb/config/edb-repl.conf : xDB レプリケーション構成
- ファイル/tools/xdb/config/xdb_subserver.conf : xDB サブスクリプションサーバー構成
- ファイル/tools/xdb/config/xdb_pubserver.conf : xDB 公開サーバー構成

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

xDB systemctl (xdb_systemctl)

説明

xDB サービスが検出されると、edb-xdbpubserver および edb-xdbsubserver の status と cat を収集します

レポート出力

- ファイル/tools/xdm/systemd/<service_name>_cat.data : systemctl cat <service_name> の出力
- ファイル/tools/xdm/systemd/<service_name>_status.data : systemctl status <service_name> の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

3.4.2 Microsoft Windows オペレーティングシステム ### PEM 構成 - Windows (pem_configuration_windows)

説明

Windows 環境の PEM エージェント、PEM サーバー、および PEM Web サーバーからの PEM 構成ファイル

レポート出力

- ファイル/tools/pem/config/edb-ssl-pem.conf : PEM Web サーバー SSL 構成ファイル
- ファイル/tools/pem/config/edb-pem.conf : PEM Web サーバー構成ファイル
- ファイル/tools/pem/config/pem.wsgi : PEM サーバー WSGI 定義ファイル
- ファイル/tools/pem/config/agent.cfg : PEM エージェント構成ファイル

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PEM sc (pem_sc)

説明

PEM が検出されると、PEM エージェントと PEM Web サーバーのステータスとコンテンツを収集します

レポート出力

ファイル/tools/pem/sc/<service_name>_query.data : sc query <service_name> の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ディスク情報 (win_disk_information)

説明

システムレジストリからのディスクとコントローラの情報

レポート出力

- ファイル/windows/enum_ide.reg : ローカルマシン ide デバイス設定
- ファイル/windows/enum_scsi.reg : ローカルマシンの scsi デバイス設定

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Hosts ファイル (win_hosts)

説明

ホストファイルとネットワーク関連情報

レポート出力

- ファイル/windows/services.data : Windows services ファイル
- ファイル/windows/protocol.data : Windows protocol ファイル
- ファイル/windows/networks.data : Windows networks ファイル
- ファイル/windows/hosts.sam : Windows hosts.sam ファイル
- ファイル/windows/hosts.data : Windows hosts ファイル

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

MsInfo (win_msinfo)

説明

NFO および TXT 形式の MsInfo32 レポート

レポート出力

- ファイル/windows/msinfo_report.txt : テキスト形式の MsInfo32 からの情報
- ファイル/windows/msinfo_report.nfo : NFO の MsInfo32 からの情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - 既知のセキュリティへの影響はありません。

ODBC / 64 (win_odbc32_info)

説明

64 ビットレジストリセクションからの ODBC 構成

レポート出力

- ファイル/windows/user_odbc_wow64.reg : ユーザー DSN リスト
- ファイル/windows/localmachine_odbcinst_wow64.reg : インストールされている ODBC ドライバーのリスト
- ファイル/windows/localmachine_odbc_wow64.reg : システム DSN リスト

深さ

表面

セキュリティへの影響

ミディアム ODBC 接続情報は、他のデータベースの存在または接続情報を Postgres に公開し、システムの攻撃に使用される可能性があります。

ODBC / 32 (win_odbc64_info)

説明

32 ビットレジストリセクションからの ODBC 構成

レポート出力

- ファイル/windows/user_odbc.reg : ユーザー DSN リスト
- ファイル/windows/localmachine_odbcinst.reg : インストールされている ODBC ドライバーのリスト
- ファイル/windows/localmachine_odbc.reg : システム DSN リスト

深さ

表面

セキュリティへの影響

ミディアム ODBC 接続情報は、他のデータベースの存在または接続情報を Postgres に公開し、システムの攻撃に使用される可能性があります。

systeminfo (win_systeminfo)

説明

systeminfo コマンドの出力

レポート出力

ファイル/windows/systeminfo_report.txt : systeminfo コマンドからの情報

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ディスクボリューム (win_volumes)

説明

WMI からのボリュームリスト

レポート出力

- ファイル/windows/association_structure : ドライブ文字と物理ドライブの関連付け
 - ファイル/windows/volume_disk : WMI サブシステムのボリュームリスト
 - ファイル/windows/logical_disk_list : WMI サブシステムの論理ディスクリスト
 - ファイル/windows/disk_partition_list : WMI サブシステムのディスクパーティションリスト
 - ファイル/windows/disk_drive_list : WMI サブシステムのディスクリスト

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

xDB CLI- Windows (xdb_cli_windows)

説明

実行中の xDB パブリケーションおよびサブスクリプションサーバーからの、いくつかの CLI コマンドからの xDB 出力

レポート出力

- Directory /tools/xdm/cli : xDB CLI 印刷コマンド

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

xDB 構成 Windows (xdm_configuration_windows)

説明

xDB 構成ファイル

レポート出力

- ファイル/tools/xdm/config/xdmReplicationServer.config : xDB スタートアップ構成、
- ファイル/tools/xdm/config/edb-repl.conf : xDB レプリケーション構成、
- ファイル/tools/xdm/config/xdm_subserver.conf : xDB サブスクリプションサーバー構成
- ファイル/tools/xdm/config/xdm_pubserver.conf : xDB 公開サーバー構成

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

xDB sc (xdb_sc)**説明**

xDB が検出されると、xDB Publication および Subscription サーバーのステータスを収集します

レポート出力

ファイル `/tools/xdb/sc/<service_name>_query.data` : ' sc query の出力

深さ**表面****セキュリティへの影響**

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

3.4.3 PostgreSQL/PGD3 nstance ### 現在のアーカイバー統計 (postgresql_archiver)

説明

pg_stat_archiver からのアーカイバープロセスのアクティビティに関する統計

レポート出力

ファイル `postgresql/archiver.out`

深さ**表面**

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

利用可能な拡張機能 (postgresql_available_extensions)

説明

サーバーで利用可能な拡張機能のリスト

レポート出力

ファイル postgresql/available_extensions.out

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

現在の bg_writer 統計 (postgresql_bgwriter)

説明

pg_stat_bgwriter からのバックグラウンドライタプロセスのアクティビティに関する統計

レポート出力

ファイル postgresql/bgwriter.out

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

バイナリのあるディレクトリ (`postgresql_bin_dir`)

説明

PostgreSQL バイナリディレクトリ

レポート出力

ファイル/`postgresql/postgresql_bin_path.data` : Postgres bin ディレクトリへのパス

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

現在の構成 (`postgresql_configuration`)

説明

Postgres の現在の構成

レポート出力

ファイル `postgresql/configuration.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

ミディウム `postgresql.conf` には悪いセキュリティポリシーが含まれている可能性があります

構成ファイル (`postgresql_configuration_files`)

説明

Postgres 構成ファイルとデータディレクトリパス。既知の接続文字列に含まれるパスワードは、情報セキュリティ上の理由から編集されます。

レポート出力

- ファイル/`postgresql/pg_ident.conf` : Postgres ident 構成ファイル
- File /`postgresql/pg_hba.conf` : Postgres ホストベースの認証ファイル
- ファイル/`postgresql/postgresql.auto.conf` : Postgres 自動構成ファイル
- ファイル/`postgresql/recovery.done` : Postgres recovery.done ファイル
- ファイル/`postgresql/recovery.conf` : Postgres recovery.conf ファイル
- ファイル/`postgresql/postgresql.conf` : Postgres 構成ファイル

深さ

表面

セキュリティへの影響

ミディウム `pg_hba.conf` および `pg_ident.conf` は、トラステッド接続などの潜在的なセキュリティホールを公開する可能性があります。

データベース (`postgresql_databases`)

説明

Postgres ノード内のデータベースのリスト

レポート出力

ファイル `postgresql/databases.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - 既知のセキュリティへの影響はありません。

`postgresql_db_bdr_tables_and_views` (`postgresql_db_bdr_tables_and_views`)

説明

次を除く、BDR 拡張機能のすべてのテーブルとビューを収集します。

- `bdr.apply_log`
- `bdr.conflict_history`
- `bdr.consensus_kv_data`
- `bdr.internal_node_pre_commit`
- `bdr.replication_status`
- `bdr.state_journal`
- `bdr.stat_activity`

レポート出力

ファイル `/postgresql/dbs/<dbname>/bdr/*` : BDR スキーマの下のすべてのテーブルのコンテンツ

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

postgresql_db_pglogical_tables_and_views (postgresql_db_pglogical_tables_and_views)

説明

pglogical 拡張のすべてのテーブルとビューを収集します

レポート出力

ファイル/postgresql/dbs/<dbname>/pglogical/* : pglogical スキーマの下のすべてのテーブルのコンテンツ

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース/ロール設定 (postgresql_db_role_setting)

説明

Postgres ノードのデータベース/ロール設定のリスト

レポート出力

ファイル postgresql/db_role_setting.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ノードとスナップショットデータ (`postgresql_node`)

説明

実行中の Postgres ノードに関する情報

レポート出力

ファイル `postgresql/node.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

`pg_config` (`postgresql_pg_config`)

説明

Postgres `pg_config` コマンド出力

レポート出力

ファイル `/postgresql/pg_config.data` : `pg_config` コマンド出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

pg_controldata (postgresql_pg_controldata)

説明

Postgres pg_controldata 情報

レポート出力

ファイル/pgsql/pg_controldata.data : pg_controldata コマンド出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

バージョン (postgresql_pg_version)

説明

Postgres のクライアントとサーバーのバージョン

レポート出力

- ファイル/pgsql/postgresql_server_version.data : Postgres サーバーバージョン
- ファイル/pgsql/postgresql_client_version.data : Postgres クライアントバージョン

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

現在の **pg_prepared_xacts** の内容 (**postgresql_prepared_xacts**)

説明

pg_prepared_xacts から準備された xacts のステータス

レポート出力

ファイル postgresql/prepared_xacts.out

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

pg_replication_origin_status の現在の内容 (**postgresql_replication_origin**)

説明

pg_replication_origin_status からの複製起点のステータス

レポート出力

ファイル postgresql/replication_origins.out

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

pg_replication_slots の現在の内容 (postgresql_replication_slots)

説明

pg_replication_slots からのレプリケーションスロット

レポート出力

ファイル postgresql/replication_slots.out

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

ロール (postgresql_roles)

説明

pg_roles のデータベースロール

レポート出力

ファイル postgresql/roles.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

メディアム pg_roles には悪いセキュリティポリシーが含まれている可能性があります

現在のアクティビティ統計 (postgresql_running_activity)

説明

pg_stat_activity からの実行中のプロセス上の現在のアクティビティに関する情報

レポート出力

ファイル postgresql/running_activity.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 - pg_stat_activity のクエリには、ユーザー名とアプリケーション名が含まれる可能性があります。

アクティブロック (postgresql_running_locks)

説明

アクティブなロックのリスト

レポート出力

ファイル postgresql/running_locks.out

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

現在の `pg_shmem_allocations` の内容 (`postgresql_shmem_allocations`)

説明

`pg_shmem_allocations` からの共有メモリ割り当てのステータス

レポート出力

ファイル `postgresql/shmem_allocations.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

`pg_stat_replication` の現在の内容 (`postgresql_stat_replication`)

説明

`pg_stat_replication` からのレプリケーション接続

レポート出力

ファイル `postgresql/replication.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

サーバーサブスクリプション統計 (`postgresql_subscription_statistics`)

説明

サブスクリプションの統計

レポート出力

ファイル `postgresql/subscription_statistics.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

サーバーサブスクリプション (`postgresql_subscriptions`)

説明

サブスクリプション一覧

レポート出力

ファイル `postgresql/subscriptions.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

表領域 (postgresql_tablespace)

説明

表領域の情報と場所

レポート出力

ファイル postgresql/tablespaces.out

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

3.4.4 すべての Postgres / BDR3 データベースの詳細## # PGD1 レプリケーションスロット (postgresql_db_bdr1_replication_slots)

説明

PGD1 の 9.6 フォーマットのレプリケーションスロットのリスト

レポート出力

ファイル `bdr1_replication_slots.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PGD2 レプリケーションスロット (`postgresql_db_bdr2_replication_slots`)

説明

PGD2 の 9.6 フォーマットのレプリケーションスロットのリスト

レポート出力

ファイル `bdr2_replication_slots.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PGD conflict_history_summary 集計 (`postgresql_db_bdr3_conflict_history_summary_agg`)

説明

すべての種類の競合の集計カウントを収集します

レポート出力

ファイル `bdr_conflict_history_summary_agg.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 - 既知のセキュリティへの影響はありません。

PGD の現在のアクティビティ統計 (`postgresql_db_bdr3_stat_activity`)

説明

`bdr.stat_activity` からの実行中のプロセス上の現在のアクティビティに関する情報

レポート出力

ファイル `bdr_stat_activity.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 - `bdr.stat_activity` のクエリには、ユーザー名とアプリケーション名が含まれる可能性があります。

PGD シーケンス (`postgresql_db_bdr_sequences`)

説明

PGD 配列一覧

レポート出力

ファイル `bdr_sequences.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PGD バージョン (`postgresql_db_bdr_version`)

説明

現在使用されている PGD のバージョン

レポート出力

ファイル `bdr_version.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース拡張 (`postgresql_db_extensions`)

説明

データベース内の拡張子のリスト

レポート出力

ファイル `extensions.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベースインデックス (`postgresql_db_indexes`)

説明

データベース内のインデックスのリスト

レポート出力

ファイル `indexes.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース手続き言語 (`postgresql_db_languages`)

説明

データベース内の手続き言語

レポート出力

ファイル `language.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PGD monitor_group_raft (postgresql_db_monitor_group_raft)

説明

bdr クラスターで raft のステータスを確認する

レポート出力

ファイル `bdr_monitor_group_raft.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PGD monitor_group_versions (postgresql_db_monitor_group_versions)

説明

すべての PGD ノードのバージョンを確認します

レポート出力

ファイル `bdr_monitor_group_versions.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

PGD monitor_local_replslots (postgresql_db_monitor_local_replslots)

説明

すべてのレプリケーションスロットのステータスを確認します

レポート出力

ファイル `bdr_monitor_local_replslots.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース演算子 (postgresql_db_operators)

説明

データベース内の演算子

レポート出力

ファイル `operator.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベースパーティションテーブル (`postgresql_db_partitioned_tables`)

説明

宣言パーティション分割を使用したパーティション分割テーブルに関する情報

レポート出力

ファイル `partitioned_table.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM `pem.agent` テーブルタプル (`postgresql_db_pem_agent`)

説明

メタテーブル `pem.agent` のデータ

レポート出力

ファイル pem_agent.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM pem.agent_config テーブルタプル (postgresql_db_pem_agent_config)

説明

メタテーブル pem.agent_config のデータ

レポート出力

ファイル pem_agent_config.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM pem.agent_heartbeat テーブルタプル (postgresql_db_pem_agent_heartbeat)

説明

メタテーブル pem.agent_heartbeat のデータ

レポート出力

ファイル `pem_agent_heartbeat.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース **PEM** `pem.agent_server_binding` テーブルタプル (`postgresql_db_pem_agent_server_binding`)

説明

メタテーブル `pem.agent_server_binding` のデータ

レポート出力

ファイル `pem_agent_server_binding.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース **PEM** `pem.config` テーブルタプル (`postgresql_db_pem_config`)

説明

メタテーブル `pem.config` のデータ

レポート出力

ファイル pem_config.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM pem.email_group テーブルタプル (postgresql_db_pem_email_group)

説明

メタテーブル pem.email_group のデータ

レポート出力

ファイル pem_email_group.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM pem.email_group_option テーブルタプル (postgresql_db_pem_email_group_option)

説明

メタテーブル pem.email_group_option のデータ

レポート出力

ファイル pem_email_group_option.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM pem.probe テーブルタプル (postgresql_db_pem_probe)

説明

メタテーブル pem.probe のデータ

レポート出力

ファイル pem_probe.out

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM pem.probe_schedule テーブルタプル (postgresql_db_pem_probe_schedule)

説明

メタテーブル pem.probe_schedule のデータ

レポート出力

ファイル `pem_probe_schedule.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM `pem.schema_version()` 出力 (`postgresql_db_pem_schema_version`)

説明

関数 `pem.schema_version()` からの出力

レポート出力

ファイル `pem_schema_version.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース PEM `pem.server` テーブルタプル (`postgresql_db_pem_server`)

説明

メタテーブル `pem.server` のデータ

レポート出力

ファイル `pem_server.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース **PEM** `pem.server_heartbeat` テーブルタプル (`postgresql_db_pem_server_heartbeat`)

説明

メタテーブル `pem.server_heartbeat` のデータ

レポート出力

ファイル `pem_server_heartbeat.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース **PEM** `pem.smtp_spool` テーブルタプル (`postgresql_db_pem_smtp_spool`)

説明

メタテーブル `pem.smtp_spool` のデータ

レポート出力

ファイル `pem_smtp_spool.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース **PEM** `pem.snmp_spool` テーブルタプル (`postgresql_db_pem_snmp_spool`)

説明

メタテーブル `pem.snmp_spool` のデータ

レポート出力

ファイル `pem_snmp_spool.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Pglogical サブスクリプションのステータス (`postgresql_db_pglogical_subscription_status`)

説明

pglogical によってレプリケートされるテーブルのリスト

レポート出力

ファイル `pglogical_subscription_status.out`

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース関数 (`postgresql_db_procs`)

説明

データベース内の関数

レポート出力

ファイル `proc.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース公開テーブル (`postgresql_db_publication_tables`)

説明

データベースの出版物のテーブルのリスト

レポート出力

ファイル `publication_tables.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース出版物 (`postgresql_db_publications`)

説明

データベースの刊行物一覧

レポート出力

ファイル `publications.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース `repmgr repmgr.events` テーブルタプル (`postgresql_db_repmgr_events`)

説明

メタテーブル `repmgr.events` のデータ

レポート出力

ファイル `repmgr/events.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース `repmgr repmgr repmgr.monitoring_history` テーブルタプル
(`postgresql_db_repmgr_monitoring_history`)

説明

メタテーブル `repmgr.monitoring_history` のデータ

レポート出力

ファイル `repmgr/monitoring_history.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース `repmgr repmgr.nodes` テーブルタプル (`postgresql_db_repmgr_nodes`)

説明

メタテーブル `repmgr.nodes` のデータ

レポート出力

ファイル `repmgr/nodes.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース `repmgr` `repmgr` `repmgr.replication_status` テーブルタプル
(`postgresql_db_repmgr_replication_status`)

説明

メタテーブル `repmgr.replication_status` のデータ

レポート出力

ファイル `repmgr/replication_status.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース `repmgr` `repmgr.show_nodes` テーブルタプル (`postgresql_db_repmgr_show_nodes`)

説明

メタテーブル `repmgr.show_nodes` のデータ

レポート出力

ファイル `repmgr/show_nodes.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベーススキーマ (`postgresql_db_schemas`)

説明

データベース内のスキーマのリスト

レポート出力

ファイル `schemas.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベース統計 (`postgresql_db_statistics`)

説明

データベースの統計

レポート出力

ファイル `statistics.out`

深さ

ディープ

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベースサブスクリプションテーブル (`postgresql_db_subscription_tables`)

説明

データベースのサブスクリプションのテーブルのリスト

レポート出力

ファイル `subscription_tables.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベーステーブル (`postgresql_db_tables`)

説明

データベース内のテーブルのリスト

レポート出力

ファイル `tables.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

データベースタイプ (`postgresql_db_types`)

説明

データベースの種類

レポート出力

ファイル `type.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database **xDB** **_edb_replicator_pub.xdb_mmr_pub_group** テーブルタプル
(`postgresql_db_xdb_mmr_pub_group`)

説明

メタテーブル`_edb_replicator_pub.xdb_mmr_pub_group` のデータ

レポート出力

ファイル `xdb_mmr_pub_group.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database **xDB** **_edb_replicator_pub.xdb_pub_database** テーブルタプル
(`postgresql_db_xdb_pub_database`)

説明

メタテーブル `_edb_replicator_pub.xdb_pub_database` のデータ

レポート出力

ファイル `xdb_pub_database.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database **xDB** **_edb_replicator_pub.xdb_pub_replug** テーブルタプル
(`postgresql_db_xdb_pub_replug`)

説明

メタテーブル `_edb_replicator_pub.xdb_pub_replug` の最後の 50 行

レポート出力

ファイル `xdb_pub_replug.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database **xDB** **_edb_replicator_pub.xdb_publication_subscriptionstable** タ ブ ル
(`postgresql_db_xdb_publication_subscriptions`)

説明

メタテーブル `_edb_replicator_pub.xdb_publication_subscriptions` のデータ

レポート出力

ファイル `xdb_publication_subscriptions.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database **xDB** **_edb_replicator_pub.xdb_publications** テ ー ブ ル タ ブ ル
(`postgresql_db_xdb_publications`)

説明

メタテーブル `_edb_replicator_pub.xdb_publications` のデータ

レポート出力

ファイル `xdb_publications.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database **xDB** **_edb_replicator_pub.rrep_mmr_pub_group** テーブルタプル
(`postgresql_db_xdb_rrep_mmr_pub_group`)

説明

メタテーブル `_edb_replicator_pub.rrep_mmr_pub_group` のデータ

レポート出力

ファイル `xdb_rrep_mmr_pub_group.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database **xDB** **_edb_replicator_pub.rrep_mmr_txset** テーブルタプル
(`postgresql_db_xdb_rrep_mmr_txset`)

説明

メタテーブル `_edb_replicator_pub.rrep_mmr_txset` の最後の 10 行

レポート出力

ファイル `xdb_rrep_mmr_txset.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database	xDB	_edb_replicator_pub.rrep_properties	テ ー ブ ル タ プ ル
(postgresql_db_xdb_rrep_properties)			

説明

メタテーブル`_edb_replicator_pub.rrep_properties`からのデータ

レポート出力

ファイル `xdb_rrep_properties.out`

Depth:** 浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database	xDB	_edb_replicator_pub.rrep_publication_tablestable	タ プ ル
(postgresql_db_xdb_rrep_publication_tables)			

説明

メタテーブル`_edb_replicator_pub.rrep_publication_tables`のデータ

レポート出力

ファイル `xdb_rrep_publication_tables.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Database `xDB _edb_replicator_pub.rrep_txset` テーブルタプル (`postgresql_db_xdb_rrep_txset`)

説明

メタテーブル `_edb_replicator_pub.rrep_txset` のデータ

レポート出力

ファイル `xdb_pub_rrep_txset.out`

深さ

浅い

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

3.4.5 Barman (Backup and Recovery Manager) ### Barman チェック (`barman_check`)

説明

構成されているすべてのサーバーの Barman check フレームワークのステータスを収集します

レポート出力

ファイル/`barman/barman_check.data` : `barman check` の出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Barman 診断 (`barman_diagnose`)

説明

バーテンダー診断情報を収集

レポート出力

ファイル/`barman/diagnose.data` : 「`barman diagnostic`」からの出力

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Barman 実行可能場所 (`barman_executable`)

説明

`barman` の実行可能場所を収集します

レポート出力

File `/barman/barman_location.data` : メインの barman 実行可能ファイルのパス

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

Barman モジュールの場所 (`barman_modules_path`)

説明

barman Python モジュールの場所を収集します

レポート出力

File `/barman/barman_python_verbose.data` : Barman python モジュールのリスト

深さ

表面

セキュリティへの影響

低 -既知のセキュリティへの影響はありません。

3.5 Servers accepting upload of reports

注釈: この情報は、外部ネットワークアクセスを持つ Lasso 実行可能ファイルにのみ適用されます。 `--version` オプションを使用して、なぜかわがインターネットにアクセスできることを確認できます。 *External network access enabled* の行を探します。

Lasso `--upload` コマンドは、高可用性と負荷分散で構成されたフロントラインアプリケーションサーバーのいずれかに tarball を送信し、カスタマーポータルの一部として EDB の Lasso レポートを受信します。

これらのサーバーは ISO 27K1 インフラストラクチャの一部であり、欧州連合の一般データ保護規則 (GDPR) に完全に準拠しています。

次の IPv4 アドレスのポート 443 へのアウトバウンド接続を開くことができるように、このサーバーのリストをインフラストラクチャチームに提供します。

1. 78.46.204.124
2. 88.99.39.37
3. 88.99.39.42
4. 88.99.80.86
5. 116.203.69.173
6. 116.203.69.177
7. 116.203.69.179
8. 116.203.69.185
9. 116.203.69.248
10. 116.203.69.253
11. 159.69.178.25
12. 159.69.178.96
13. 159.69.181.84
14. 159.69.181.86
15. 195.201.138.157
16. 195.201.99.62

IPv6 も使用する場合は、次のリストを追加します。

1. 2a01:4f8:1c17:482e::1
2. 2a01:4f8:1c17:4f1a::1
3. 2a01:4f8:1c17:5197::1
4. 2a01:4f8:1c17:529d::1
5. 2a01:4f8:c010:1210::1
6. 2a01:4f8:c010:154c::1
7. 2a01:4f8:c010:1550::1
8. 2a01:4f8:c010:1551::1
9. 2a01:4f8:1c1c:c82e::1
10. 2a01:4f8:1c1c:c836::1
11. 2a01:4f8:1c1c:c837::1

- 12. 2a01:4f8:1c1c:c95f::1
- 13. 2a01:4f8:1c1c:c97e::1
- 14. 2a01:4f8:1c1c:ca43::1
- 15. 2a01:4f8:1c1c:ca4e::1
- 16. 2a01:4f8:1c1c:dab3::1